

# ふるさと歴史アラカルト

## 岩国の昔ばなし 3

### 好思案谷よいしあんたに

ある猟師が、関戸村のイヤツケ浴という場所へ行き、夕方、鳥小屋にこもってキジが出てくるのを待っていました。ふと見ると、鳥小屋の前をミミズが這っているのを見えましたが、どこからともなくカエルが飛び出してきて、ミミズを食べて去ろうとしました。その矢先、草むらの中からヘビが出てきて、このカエルを捕まえて呑み込んでしまったのです。猟師がそれを見て不思議な思いをしているうちに、今度はキジがやって来て、ヘビを捕まえ啄みました。猟師は「これは良い獲物だ」と、鉄砲を手に取り、狙いすまして撃とうとしましたが、これまでの経過から因果応報という事を思い出し「今、キジを殺せば、自分もまたどんな目に遭うかわからない」と考えて撃つのをやめ「長居は無用」と、すぐに鳥小屋を出しました。数歩進んだとき、後ろの林から何物とも知れず、山が崩れるほどの大きな声で「好思案（良い考えだ）、

好思案」と繰り返して叫んでいたの、猟師は大変驚きました。そして、生きた心地もしないまま、後ろを顧みることなく急いで走って帰り、二度とこの谷には近づきませんでした。また、この話を伝え聞いて他の猟師たちも立ち入らなくなり、ついにこの谷は好思案谷と呼ばれるようになったそうです。また、この谷に関する話がもう一つあります。境九郎左衛門という高慢で心の強い人がこの谷の話を聞いて「どれ、その谷に行ってみよう」と友人と二人で夜中に出掛けました。関戸に行く途中、横山の広場を通っていると、関戸の方から大きな火の玉が矢を射るように飛んできて、九郎左衛門の上を回って割れました。驚きながらこれを見て「まだ着く前からこのような不思議なことが起こるのであれば、行つてはならない場所なのだ」と思い「さあ帰ろう」と二人で宿に帰り、その後は高慢な性格を改めたそうです。

※1『岩国沿革志（怪談録追加・実事談）』編者の藤田葆は、猟師が自分の狙う獲物が人にとられないようにするため作った作り話だと考えており、この谷の本名や由来は分らないと述べています。また、歴史はこの谷のような事を繰り返しており、近年、世界の国々が特にそうだと戒めています。

今回の史料『岩国沿革志（怪談録追加・実事談）』

江戸時代に岩国藩士広瀬喜尚が記した「岩邑怪談録」を藤田葆が編集し、怪談話や実話を追加したもの。明治43(1910)年。

### 岩国徴古館いわくにちようこかん

昭和20年に旧岩国藩主吉川家によって建てられ、その後岩国市に移管された市立の博物館

住所：横山二丁目7-19 ☎0452  
休館日：月曜(祝日の場合はその翌日)

## 岩国市 人口・世帯

人口 143,075 人【前月比 -160人】 男性 67,754 人 女性 75,321 人

世帯 66,704 世帯【前月比 -64世帯】 ※外国人人口を含む（平成26年2月1日現在）

交通事故発生件数 1月分事故件数 38件(38件) 死者数 2人(2人) 傷者数 44人(44人)

※高速道路発生分を除く

※( )内は平成26年累計

### 広報テレホン

休日在宅医療機関、イベント情報などをお知らせしています。テレホンサービス ☎231234

### 目の不自由な人へ

「広報いわくに」のカセットテープをお貸しします。音声読み上げのためのテキスト版を、ホームページに掲載しています。

お問い合わせはお気軽に、秘書広報課広報班へ ☎295016 FAX213337